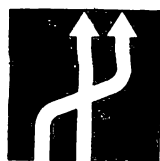


KSKP サロン・あべの

NO. 51



親ばなれ子ばなれ

自立を応援する親の立場から

△サロン・あべの▽七月の出会い

六月の出会いでは、「障害者の親ばなれ、子ばなれ」を子供の側から考えました。そして、七月の出会い（平成二年七月二一日）では、障害者の子供（成人者）を持つ親の立場から「自立」を考えておられる今井清行氏（堺自立の家代表）をバネラーにお迎えしてお話を伺った。

親の立場

今井氏には重度の障害を持つ息子さんがおられた（昨年二六歳で死去）関係で、子供さんの成長と共に養護学校、特別学級、作業所活動等さまざまな活動に参加されてこられた。その活動の根底には、常に何が子供にとってベストであるか、の考えがあった。子供の社会参加に必要な行政側のバックアップを得る為

の交渉や、その後の運営等に関連して尽力されてきた。その過程で重度障害者の将来も考えなければならなくなってきた。特に片親家庭においての親の負担

は大きく、体調を崩すことが度々起き、入退院を繰り返すその都度、子供は一時預けの施設や親類の家で世話になるという事例が、仲間の中に出てきた。親の体力の老化と子供の体格の成長で、今までの力のバランスが崩れてきた。

これはなんとかしなければいけないと、いうことになったが、親の負担を軽減するには、施設に入れるか、介護者の手を増やし家庭で面倒をみるかしかない。しかし、施設に入れてしまうのはちょっとためらわれる。とあって、人手を増やすというのも難しい。ここから出て来たのが、親亡き後も地域の中で安心して暮らしていくためのケア付き共同住宅「自立の家」である。

自立の家

今までの「障害者の自立」というと障害者自身とか、彼らをとりにまくボランティアの人とか、施設の人とか、行政とか、が作ってきたものであったが、「堺自立の家」は親が中心として設立された。それも父親だけに声をかけた（十一人）。なぜ父親なのかといえば、子供を客観的にみれることと、父親は社会的な目を持って対処出来るから。

又、多額な金銭（設備費六〇〇万円負担）も関係しているところから、父親の方が話が有利に進められることもあった。十二人の父親が半年、各関係機関と交渉を持ち、粘りと根気、気心を通わせて完成へときぎつけた。

しかし、今この家には、父子家庭の障害者が二人（介護人一人と）入居しているだけなので、助成金はゼロだが、今年度中に

は、規定条件の四人定員を満たした段階で市に補助申請する予定になっている。

親の思い

親の心の中には、常に親自身に何事があった時、子の面倒は誰がみってくれるかという思いがある。特に母親には、子供に対する責任感と因縁が人一倍強く、百人中百人が子供（成人した重度障害者）を手離しがたく思っている。それに「親が面倒みなくて、誰がみる。」という世間の目もあり、子ばなれ出来る親は少ない。子供の面倒をみることで、自分自身の存在を確かめている親もいる。それに、子供の障害年金が生活の一部になってしまっていれば、なおのこと手離しがたくなってくる。親が五、六〇代になって体力の衰えを実感しないと子供の自立を考えたせないのが現実で、母親は最後まで子ばなれが出来ない。

自立を受け入れる社会を

重度障害者が自立を考えても、親が居る場合はよほど固い意志を持って当たらないと実現はしない。たいがいの親は他人に預ける考えはなく、自分の後は身近な（兄弟姉妹）人に頼みたいと思っている。親を当てにしないで、障害者本人と親でない社会人とが障害者の自立が当たり前のものとして、社会に受け入れられるようにしていかなくてはならないのではないかと考える。

次なる目標は、自分自身で働いたお金で生活していくこと。そのため就労の場や職種の拡大が大きな課題である。

今後、「堺自立の家」のような試みが拡がっていくことにより、本当の意味でのノーマライゼーションの早い実現が望まれる。

参加者は、二四人。司会 上平幸雄氏

夏の風物詩 あへのカーニバル



△サロン・あべの▽

八月の出会い

真夏の太陽がキラメク平成二年八月十九日(日)午後一時〜九時、あべのカーニバルなんでも市通りに△サロン・あべの▽のバザー店「さろん亭」が開店した。白地に鮮やかな藍で「さろん亭」と描かれたのれんが風に踊るテント下で、商品が並べられていく。瀬戸物やガラスの食器、台所商品、サラダ油等の食料品、石鹼、タオル、ハンカチ、花瓶、額縁等々、所狭しと並べられていく。

「お客さん 来てはるけれど、売ってもいいかな。」
「時間厳守や 言うてはったけどな」

「並べた品物は、早く売ってしまわないとストックしている品物出されへんけどな・・・」

売手の試案顔におかまいなく、お客さんはどんどん増えていく。

三時開始の花火の音がする頃には、商品の動きが活発になって奥から次々と出された品物が、目まぐるしく売れていく。

買手と売手の掛引きも堂に入ったベテランさん。初めての参加でも、物おじすることなく、ときばきとお客さんに対応される方。さろん亭は、お陰様で大繁盛。

「サロンさんは、元気やね」
「若い人ばかりね」

人と商品をかき分けて、いつものお顔馴染みが、寄って来て下さる。七夕さまのようにこの日だけ合える人もいる。

一時の騒然さが一段落して、喉の乾きを癒した後は、ここを最後までばかりに売り尽くしの気合いを込めて、半額セールを始める。

「安いよ、安いよ。お買い得ですよ」

「今のうち、後には残らない品ですよ」

「さろん亭」大繁盛

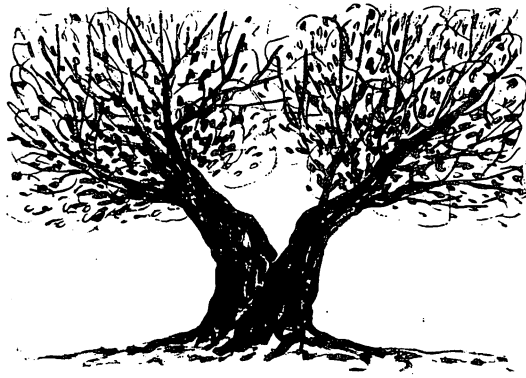


バタバタと客足がまた増えて、店の奥まで品定めの人々が来られる。お客さんも慣れたもので、商品をまとめて上手に買っていく。

ただし、槽のマイクが人を集め輪をつくりだす。今年も無事に終わったよろこびが、胸一杯に広がっていく。

残った品々を並べ替える頃には、ちようちんに灯が入り、祭り気分がたそがれの風の中に漂う。ポツポツとゆかた姿も目立

多くの皆様方のご支援、ご協力を賜りまして今年も「さろん亭」は、盛況のうちに多くの出会い、ふれあい、助けあいを体験できました。



カーニバルの時の
お揃いのTシャツ

● 山本 篤 江

今年もあべのカーニバルがきました。そしてハサロン・あべのVも、五周年。

「なにか、目立つことをしてみたい。」

「ハサロン・あべのVのキャラクターを作りたいね。」

みんなの意見が一致して、一年前から習っていたTシャツに特殊な絵の具と切抜きの下絵を使い、プリントをしていくものに決まりました。

「サロン」のみんなで作っていくと、あっ！というまに次から次へと、真っ白なTシャツに、前や、後ろと若葉が繁っている大きな木が入っていきます。一枚出来るごとに「きれいなね！」

「これは、黄色が多いから枯れ木みたいや」とか、「緑が多いから、暗く感じるかな？」

わーわー、がやがや、楽しかったです。
まるで、これからの「サロン」のようでもあり、これまでの五年間の成長の様にも思えるデザインでした。来年はこの大木を今年よりも、一回りも二回りも大きく、プリントをしたいものです。

井感謝しますす井

いつも、カンパ、冊子等ご支援いただきました。ありがとうございます。

- 七月のカンパ 金七〇〇〇円
- 八月のカンパ 金二六三〇〇円
- 柿岡緑、栗野利秋、坂井征子
- 鹿野敬一、竹中千代子、田辺徳孝、広岡泰枝、前田博子、水戸春子、柳生幸子、匿名五名。

●
○あべのカーニバル・なんでも市通りにバザー店「さろん亭」開設に、色々と協力下さった皆様、ありがとうございます。

- 赤松憲二、旭純子、安達尚子
- 石田惣・律、石田花子、石原栄
- 伊勢村和子、伊藤玲子、井上憲一、上平幸雄、植松菊雄、宇野律子、江戸義夫、大塚一枝、岡知史、岡田浅吉、岡本登志子、小川哲、大高、金岡千恵子、金子花江、加賀谷正、河合恵子、

- 黒羽玲子、齊藤孝文、阪口悦子
- 坂本寛、崎本ヒサエ、皿谷千秋
- 鹿野敬一、塩井澄子、大丸昭典
- 竹下秀樹、竹中千代子、竹村定子、田中マサエ、辻本輝子、土屋由利子、津村孝子、富田慶子
- ・十一・実幸、富田万里子、中井康代、永井美智子、中原友喜
- 並松由利子、南光龍平・仁子、長谷川マキエ、原田仁、久木浩
- 黄擘之、前田博子、松田峰子、松谷裕子、松森美智子、丸山寿美子、まんだによしゆき、水野千鶴、森田、倭満也子、山村貴司、山本篤江、万木恭子、吉田毅、若林勝雄、匿名五名。

(敬称略)

あべのカーニバルなんでも市「さろん亭」の売り上げ

金八八、二四一円也

ご協力

ありがとうございます。

サロン・あべの 会計

ナンペイの

「ひとつ」とふたこと。

いくつかの「ありがとう」

ひとつ目の「ありがとう」は、六月の「サロン紙」で山本篤江さんが紹介されたJR阪和線我孫子駅の、電車とホームとの段差を少なくするための工事。下りホームが先に完成していましたが、現在上りホームの工事が進行中。おそらく今回のサロン紙が皆さんの手に届く頃には、工事も完成していて、車椅子でも乗り降りしやすい我孫子町の駅になっていることでしょう。関係者のみなさんありがとう

ございました。大いに利用させて戴きます。

ふたつ目の「ありがとう」は、サロン・あべの方々にもご協力して戴いた「ハンズの会」主催の「花博の一日」についての「ありがとう」です。六〇名近くの大所帯になった今回のイベント。小雨には逢ったもののそれほど暑くもなく、皆さん元気に、それぞれに楽しんで戴けたのではと思っています。皆さんお疲れさまでした。そして重ね重ねありがとうございます。さて、その次の「ありがとう」は私個人のことです。「サロン紙」七月号まで連載させて戴いていた「ハワイ珍道中」、お陰様でなんとか完結す

ることが出来ました。ながながと書かせていただき「ええかげんにせい！」という声があちこちから聞こえてきそうな中で、編集子の「好評ですよ」の甘い囁きに、意を強くして書き終えることが出来ました。本当にありがとうございます。ありがとうございました。

更に厚かましくも、「また、なにか書くように」との悪魔（

？）の囁きに己の力も忘れ、またしても「サロン紙」の紙面を汚すことになりそうです。

第一回目の今回は、私のまわりへの様々な感謝の気持ちを皆さんにお伝えしたいと思います。そして、「これからもどうぞよろしく」の気持ちも…。

南光龍平



溺れかけて

岡知史

夏のテレビは毎日のように海で亡くなった人のことを知らせている。おそらく、亡くなった人の誰一人として、自分が海で命を落とすとは、思ってもいなかったことだろう。

ぼく自身、一度溺れかけたことがある。二年前のこと、波が強い海だったので、臆病なぼくは、砂浜で何をしようかというのでもなく、泳いでいる人を見ていた。しかし、そろそろ帰る時間がちかづいてくると、一度くらいは泳いでみなければと思い、十メートルぐらい沖へ出るつもりで海にとびこんだ。

だが、次に頭を波のうえに出したときには、もう足が下につかなかった。波は強くて、みるみるうちに流されているのがわか

った。砂浜に置いたままの浮き輪は、もう見えないくらいに小さくなっている。

「そんな、あほな」という言葉が、思わず口から出ていた。ぼくの人生には全く関係のないこんなところで、しかもいままでの生き方とはなんのつながりもないあり方で、あつけなく総ては終つてしまふか。

実は、そこは異国の海。助けを求めようにも土地の言葉で何と言えいいのかわからない。

海で溺れる人が毎年、たくさんいることは知っていた。しかし自分だけは別なような気がしていた。

泳ぎに自信があつたというのではない。何の根拠もなく、自分の事故などは信じられなかつただけなのだ。

幸いなことに、外国人の知人に助けられたのであるが、その夜は床の上に寝ていても、突然身体ごと海の底に落ちていくような感覚が何度も波のようにおしよせ、眠ることができなかったのである。そして、こんなことを考えた。

こどものころ、ぼくは線路の近くにくると、わくわくしながら列車が来るのを待っていた。線路のすぐそばで、特に車輪のあたりを見るのが好きだったのである。

列車がくると、鉄のレールが、やわらかいゴムのように、ぐにやつ、ぐにやつと曲がる。近づくと危ないと言われていたが、堅いはずの鉄のレールが、むちのように曲がる様子に心を魅かれた。

それに触れたらどうなるだろう。そこは自分の常識が通じない別の世界の入口のようだった。

そこに手を入れると、車輪に巻き込まれて、一瞬のうちにぼくの身体は引きちぎられるだろう。しかし、それでぼくは死ぬのだろうか。この山や空が一瞬のうちに消えて、二度と見られなくなるのだろうか。

こどものぼくにはそれが不思議だった。そんなことがあるのだろうか。

そうではなくて、堅い鉄がゴムのように曲がつてしまう別の世界が、列車の車輪とレールの間から広がっているのかもしれない。「不思議の国のアリス」も、こんなふうに物語りは始まったのだ。

ごどもはしばしば、世界の中心は自分だと思ひ込む。だから自分が死んでいなくなるということが、なんだか納得いかないのだろう。

人間は自分の目で見、自分の耳で聞き、自分の肌で感じるこゝろしかできない。そのため、うつかりすると世界にはあたかも自分しかいないような錯覚をもつてしまう。となると、目の前に広がる雄大な光景も目にかかれば映像にすぎない。人間の力も無に等しいほどの大自然の峡谷も、指先ひとつで消去できるビデオの映像と変わらなくなる。

殴るとゆがむ顔がおもしろかったと供述していた、女子高中生コンクリート事件の犯人たちも、殺した幼児の姿をビデオにとっていた青年も、そういう感覚のもち主だったのかも知れない。

そんな感覚は、おそらく他者との交わりの経験を積むにつれて、しだいに消えていくのだろうか、とはいえず、大人になるとそれが完全に無くなるかというところ、そうではないようだ。それは、ぼく自身がそのとき体験したことである。

自分の死が信じられないということは、どこかで他者のいのちを感じられないというに通じている。濡れかけて、ぼくはようやくそのことに気がついたのだ。

● われらがあへのボランティア・ビューロー③

何やら難しい時代ですが

うちの会社は完全週休二日制ではないので、サロンにいくときでもちよつと抜け出していくことがあるんです。そんな時「お前、そんな所（失礼な）に行くぐらいならオレのボランティアしてくれよ」という人がいる。これは、ボランティアただ働きみたいな考え方なわけで、当然間違つたこゝろの使い方です。

それから、ボランティア活動をやっているという人と話している時に「私はボランティアですから何にも考えることはできませんので、お手伝いだけやらやります。

何しろボランティアですから。エヘン」と言われたりします。これは難しいところですが、ボランティアというのは自分自身の意志や考えでやるもんだという本来の意味からすると、どうも間違い臭いところがあります。

いづれにしても、ボランティアをしようと思つている人にも、思わない人にも「ボランティア」ということば自体、わかるよ

うでわかりにくい、特に、最近あちらこちらでボランティアということばがもてはやされるようになって余計に難しくなつたような気がしてなりません。

ということは、ボランティア・ビューローが何をするとこゝろかというのでも「まあ、よくわからん」ということで、何でもしてくれそうな気がして好きなように利用している、頭のどこかでは「これじゃビューローに悪いかな」と思つたりもしてゐるんです。思うだけです。

そんなこんなで、ビューローも大変だなと思う今日このごろ、僕らはビューローに何をしてほしいのか、いや、そうではなくてビューローを通して何をしたいのか、考え始めているところです。

● 原田 仁

美智子のこんな話



岸田 美智子

車椅子障害者など200人がデモ行進！

地域での介助保障制度の拡充訴え

七月四日、大阪府内の障害者団体、親の会、労働組合などをつくる「国際障害者年を機に『障害』者の自立と完全参加を求める大阪連絡会議」主催の総決起集会が、七月二五日の府とのオールラウンド交渉を控え、中央区の大阪市立中央青年センターで開かれました。

「大阪府は九〇年代の障害者福祉政策として地域福祉の推進をうたい、老人ホームや療護施設に『在宅サービス供給ステーション』の設置を進めようとしているが、そ

の人材確保などは民間や入所施設におまかせであり、今でも人手が足りなくて劣悪な施設生活の実態があるのに、矛盾した政策だ。」などという基調報告がありました。

そして、府に対する要求書の討議と確認などや生きる場・作業所の実態アンケートの集約結果発表などの後、車椅子約五〇台と視覚障害者など参加者合わせて二〇〇人



おしらせ

十月の出会い

日時 平成二年十月二〇日(土)

午後一時～四時

場所 育徳コミュニティセンター

研修室(車イス・スロープ有)

内容 盲導犬「ケリア号」の思い出

パネラー

大島 功氏

会費 なし

問い合わせ TEL・06-691-1028 (富田慶子)

が、ケア付き住宅の建設、ホームヘルパー・ガイドヘルパーの増員、統合教育の充実を訴えながら、会場から府庁へ向けてデモ行進しました。

その時、街宣車のマイクから流れる盲人のM君の声が魅力的だなどと、改めて聞き惚れていた私でした。

∞ サロン・あべの紙の

朗読テープが出来ました ∞

「阿倍野区ボランティア連絡協議会」の朗読グループのご協力により、サロン・あべの紙の録音テープを作っていたいています。バックナンバーは三九号から、五〇号の分があります。五〇号は記念号で頁数がおおく、九〇分と六〇分の二巻に収録されています。サロン紙朗読テープご希望の方は、富田までお申し出下さい。

(TEL06-691-1028)

編集後記

本紙はだんだん読んでくださる方が増え、非常にうれしく思っています。それに伴って、発送経費も比例して嵩んできているのも事実です。だからといってくサロン・あべの>単独で第三種郵便の認可を受けるまでには、まだまだ力がたりません。それで、このたび第三種郵便認可の条件を満たし、経費節減が出来るということで、関西障害者定期刊行物協会に入りました。紙面随所に、KSKP通巻〇〇号とあるのは、そのためです。ご了解ください。(石)

ふれあい交流会

日時; 10月26日(金)
午後1:30-4:00
場所; 大阪市立身体障害者
スポーツセンター
内容; 秋、恒例のボランティア・スクール受講生とのふれあい交流会
会費; なし
主催; あべのボランティア・ビューロー
申込み締切り; 10月20日
問い合わせ先; TEL.06-628-3434.
あべのボランティア・ビューロー
TEL.06-691-1028.
(富田慶子)



今年の十二月一日(土)から、NITの電話番号案内の一〇四番が、一番号案内につき三〇円の有料になります。
けれども、目や上肢の不自由な方等には、これまでどおり無料で案内されます。
対象者は、次の方々です。
○身体障害者手帳を持つ人。
視力障害者Ⅱ〜六級
肢体不自由(上肢、体幹、乳幼児期以前の非進行性の脳病

変による運動機能障害)

Ⅱ、二級

○戦傷病者手帳を持つ人。

視力の障害Ⅱ特別項症、第六

項症、

上肢の障害Ⅱ特別項症、第二

項症

この制度を利用される方は、

NITの支店、営業所へ直接行

かれるか、郵送で所定の申込書

に必要な事項を書き込み、各人の

手帳のコピーしたものと一緒に

申し込みをして下さい。受け付

けは、九月一日から遅くとも十

一月上旬までです。

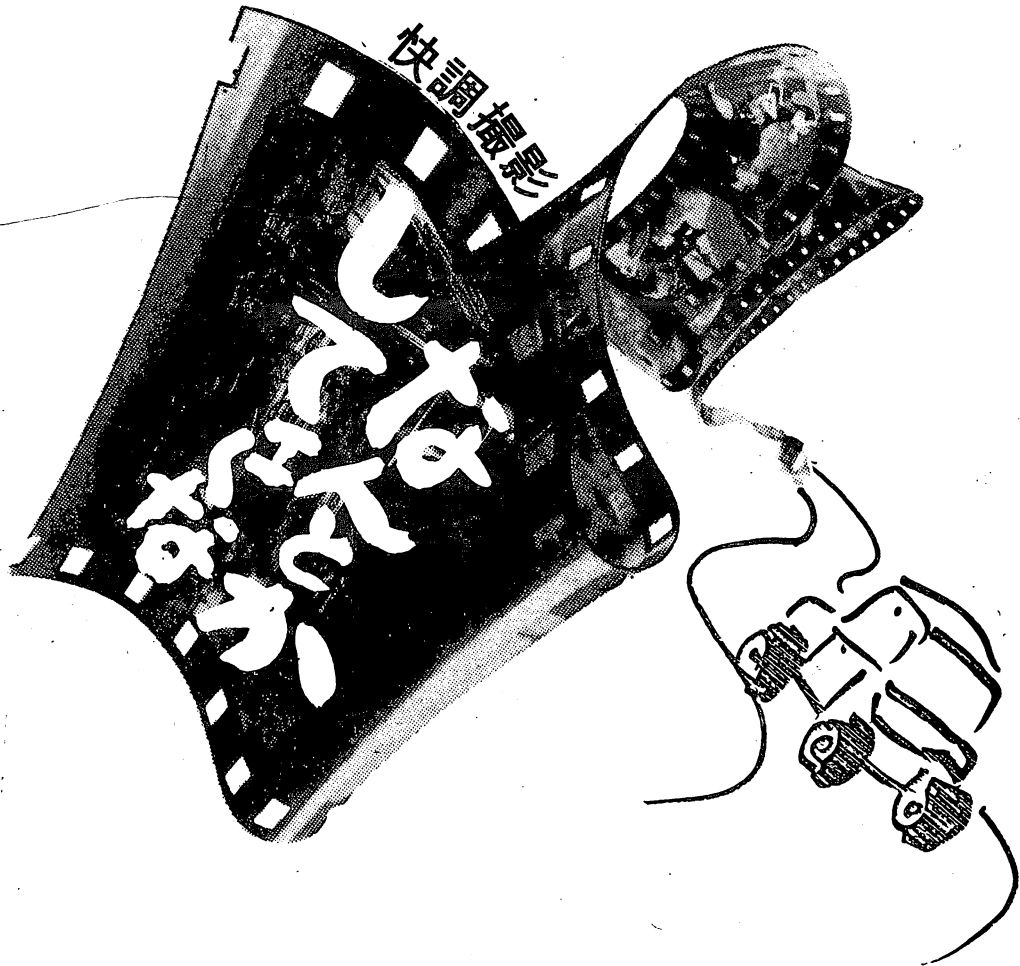
詳しいお問合わせは、局番な

しの一六番へして下さい。

KSKPサロン・あべの通巻1388号1990年9月18日

5周年記念 第2弾

サロンあべの紙好評連載中の「なんとかしてエ〜な」がビデオに



乞う！ご期待 91年早春ロードショー

笑い…スリル…驚きの連続。はあるかどうかわかりませんが...

20世紀にはもう出てこない!

企画・製作 サロン・あべの運営委員会

サロン・あべの>第51号編集:サロン・あべの 運営委員会 定価 100円
阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028 冨田慶子)

一九九〇年九月十八日発行(毎日発行) KSKP通巻二三八八号一九八四年八月二〇日第三種郵便認可
発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市東成区中本一三三六、ベルビュウ森の宮二〇七号